

◆授業設計のポイント◆

- ・ 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化
- ・ 思考を広げ深める手立ての工夫
- ・ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫

## 音楽科学習指導案

学 級 3年6組(男子20名女子15名計35名)

場 所 第1音楽室(本校舎4F)

授業者 教 諭 岩 切 理 恵 子

### 1 題材 曲にふさわしい表現を工夫しよう [共通事項] 旋律, 強弱

教材 「夏の日の贈りもの」(混声二部合唱)(高木あき子 作詞/加賀清孝 作曲)

### 2 題材について

#### (1) 題材設定の理由

本題材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年 A 表現(1) ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。イ (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解すること。(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解すること。ウ (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。」に関する内容である。

音楽科教育の目標は表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することである。そのため、できるだけ多くの音楽活動を体験させることで、音楽のよさを感じ生涯にわたって音楽を愛好していこうとする生徒を育てたいと考えている。音楽の基礎的な活動の一つである歌唱、特に協働し合いつくり上げる喜びを感じながら豊かに表現することが可能な合唱は、より深い音楽、より感動する音楽を生徒に味わわせ体験させるのに適していると考えられる。

本校の生徒は、音楽の授業をはじめ、音楽コンクールや文化祭等で合唱活動を経験するが、合唱はリズムや音程を合わせることができたら「仕上がった」と思って満足しているところが見られる。また、楽曲について深く考えたり、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて理解したり、歌詞の意味や、歌詞に込められたメッセージを伝えるように歌ったりするなど、試行錯誤を繰り返して表現を練り上げていくことの楽しさを味わうまでに至らない場面も見られる。

音楽は、音楽を形づくっている要素や構造と曲想が互いに深く関わり合って成り立っていることに気付かせることは重要であり、生徒はそのことによって、楽曲の内容をより深くイメージすることができ、表現を工夫していくことができると考える。つまり、音楽を形づくっている諸要素を理解し、それらと音楽の構造や曲想との関わりを感じ取る能力を育てることが、表現を工夫するための技能を高めていくことにつながるといえる。音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を感じ取らせながら表現の工夫を考えていく活動を通して、歌唱表現の楽しさを味わわせたい。

本教材「夏の日の贈りもの」は、7月に実施される本校音楽コンクール3年生の課題曲である。変ロ長調、4分の4拍子、混声二部合唱で、無理のない音域で歌いやすく、男声と女声の掛け合いによる響きが美しい曲で、生徒にも大変好まれている。安らぎを感じられるような豊かな詩情が込められた歌詞と、旋律の抑揚が一体化しており、旋律のまとまり、声部の重なりやバランス、強弱の変化など、これまで学習したことを生かしながら聴き手に自分たちの思いを伝えられるように、表現の工夫と技能を高めさせるのに適した教材である。生徒一人一人が楽曲の表現について考え、グループでの話し合い活動や練習を通して、仲間とともに創意工夫を生かした音楽表現をすることの楽しさを味わわせることで、主体的・協働的な音楽活動が充実し、今後の音楽活動に更に意欲的に取り組むことができると考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態（アンケート対象：3年6組 男子18名 女子15名 計33名 回答）

今回の学習に取り組むに当たって、事前調査を実施した。

- 1 音楽の授業でのグループ活動（合唱のパート練習やグループ練習）は好きですか。  
好き（15人） どちらかといえば好き（10人） どちらかといえば嫌い（5人） 嫌い（3人）  
好きな理由：教え合って上手になるから、みんなでやると楽しいから、できるようになるから  
嫌いな理由：友達と同じように出来ないから、差があるから、一生懸命やらない人がいるから
- 2 音楽の授業でのグループ活動（表現や鑑賞での話し合い活動）で自分の意見や考えを発表できますか。  
できる（9人） どちらかといえばできる（15人） どちらかといえばできない（7人） できない（2人）  
できると答えた理由：他の教科でもやっているから、自分の考えを聞いてほしいから、単に言うだけだから  
できないと答えた理由：自信がないから、友達と意見が違くと恥ずかしいから、音楽に詳しくないから
- 3 音楽の授業でのグループ活動（表現や鑑賞での話し合い活動）で、自分の意見や考えを音楽の用語や記号を使って根拠をもって発表できますか。  
できる（6人） どちらかといえばできる（9人） どちらかといえばできない（11人） できない（7人）
- 4 歌う時に、「～のように歌いたい」という思いや気持ち、イメージをもっていますか。  
はい（21人） どちらかといえばはい（7人） どちらかといえばいいえ（4人） いいえ（1人）
- 5 歌う時に、「～のように歌いたい」という思いや気持ちを実際に演奏で表現できますか。  
できる（6人） どちらかといえばできる（11人） どちらかといえばできない（13人） できない（3人）  
できると答えた理由：ピアノを習っているから、楽譜を読めるから、歌が好きだから、思ったように歌えばいいから  
できないと答えた理由：思っても実際は歌えないから、どのように歌ったらいいか歌い方がわからないから
- 6 合唱の時に、何を手掛かりに表現の工夫をしていますか。（複数回答）  
強弱（27人） 速度（24人） 歌詞（20人） 音程（17人） リズム（15人） 諸記号（13人）  
ハーモニー（13人） 響き（11人） 旋律（11人） バランス（11人） 音色（10人）  
声部の違い・役割（10人） 作詞者・作曲者の思い（8人） 形式・構成（3人） 拍子（3人）  
フレーズ（1人）

アンケートの結果から、音楽の授業の中でのパート練習やグループ練習などのグループ活動を好む生徒が多く、話し合い活動においても、自分の思いを伝えたり、友達の意見を参考にしたりしながら、共によりよいものをつくり上げていきたいという思いをもっていることが分かる。

また、多くの生徒が単に歌うだけでなく、自分のもった思いや意図を音楽表現につなげたいと考えていることが分かる。しかし、自分の思いや意図をもっているとしても、それらを実際の演奏で音楽表現できていると考えている生徒は半数以下で、それは基礎的な音楽知識や歌唱の技能が十分ではないためであると考えられる。音楽から聴き取り感じ取ったことを言葉で表現すること、すなわち音楽の諸要素を感覚的に捉えることができても、それらを音楽と結び付けたり、適切な言葉に置き換えることができない生徒もいる。自己のイメージや思いなどを他者と伝え合ったり、他者がどのようなことを意図しているのかをよく考えて、それに共感したりするためには、音楽に関する用語や記号などを適切に用いることが有効であると考えられる。題材を通じた活動の中で、音楽の基礎基本事項をまとめた「手引き」の活用を図りたい。表現したい思いや意図をもち、要素の働き方を試行錯誤し、個々の能力や習熟度に応じてよりよい音楽表現の方法を見出して歌うことが表現の工夫となる。楽譜に示されている用語や記号についても、なぜその部分に記号が付けられているかを考えたり、どのように歌ったらよいかを仲間と話し合ったり実際に演奏で試したりする活動をさせたい。教師や仲間の考えや演奏を聴くことで、気付きを増やしたり、互いに協力しながら音楽をつくり上げる楽しさを感じさせたりしながら、今後の音楽活動につながるよう指導していきたい。

(3) 指導観

本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して指導を進めたい。

- ア 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせ、それを基に試行錯誤する生徒の思考の流れを想定した支援を行い、主体的・創造的な表現活動へつなげさせる。

イ 話し合いや練習でのグループ活動の中で、生徒が主体的に活動できる場を多く設定し、自分のもった思いや意図を他者と共有し学び合いながら、生徒自身が話し合ったことを音にどのように生かせるかを考え、工夫して演奏する主体的な表現活動へつなげさせる。

ウ 学習のプロセスを見通し、振り返る場面を設定し、学ぶことや次の学習への意欲を喚起させたり、学んだことの意味や価値を自覚させたりすることで、今後の音楽活動への意欲につなげさせる。

### 3 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想，旋律線と強弱との関わりについて理解し，創意工夫を生かした表現で他者と合わせて歌うことができる。(ア 知識及び技能)
- (2) 旋律線のもつ特徴を感じ取り，それらを強弱と関わらせながら，どのように表現するかについての思いや意図をもち，歌唱表現に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。(イ 思考力，判断力，表現力等)
- (3) 歌詞の内容や曲想，旋律線と強弱との関わりについて興味・関心をもち，それらを生かした音楽表現を工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組むことができる。(ウ 学びに向かう力，人間性等)

### 4 題材における評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力，判断力，表現力等	ウ 学びに向かう力，人間性等
○ 歌詞の内容や曲想，旋律線と強弱との関わりについて理解し，創意工夫を生かした表現で他者と合わせて歌うことができる。	○ 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ○ 歌詞の内容や曲想を味わったり，旋律線と強弱との関わりを理解したりしながら，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	○ 歌詞の内容や曲想，旋律線と強弱との関わりに関心を持ち，それらを生かした音楽表現を工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。

### 5 題材の指導計画（全3時間）【単位時間における評価規準】

時	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		ア 知識及び技能	イ 思考力，判断力，表現力等	ウ 学びに向かう力，人間性等
1	1 「夏の日の贈りもの」の音程をパート練習で確認してから，混声二部合唱で歌う。 2 [A]，[B]の部分の旋律線の動きと強弱を全員で確認しながら歌う。 3 [C]の部分の旋律線の動きと強弱について個人で確認する。 4 歌詞の内容や曲想，旋律線と強弱との関わりについて考え，どのように歌うかについての思いや意図を楽譜と付箋に書き込む。		○ 音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じている。 (音楽表現の創意工夫)	

2 ( 本 時 )	1 前時の学習を振り返り、グループごとにCの部分の表現の工夫について話し合い、練習する。 2 話し合った内容や表現の工夫と演奏を発表し合う。		○ 歌詞の内容や曲想を味わったり、旋律線と強弱との関わりを理解したりしながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫)	○ 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりに関心を持ち、それらを生かした音楽表現を工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)
3	1 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりを生かした音楽表現について全員で確認する。 2 まとめの合唱をする。	○ 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で他者と合わせて歌うことができる。 (表現の技能)		

## 6 本時の実際 (2 / 3)

- (1) 題材 曲にふさわしい表現を工夫しよう — 「夏の日」の贈りもの —  
(2) 目標 歌詞の内容や曲想、旋律と強弱との関わりを生かして表現を工夫することができる。  
(3) 授業設計の工夫

ア 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化 **研究の視点1**

表現の活動において、既習事項を活用しながら、新たな知識や考え方を身に付け、思いや意図を音楽表現できることを深い理解に至った生徒の姿と考える。

- ・ 題材を通して生徒の思考の流れ（気づき→納得→意志）を想定し、既習事項の活用や演奏の比較により試行錯誤させることで、主体的・創造的な表現活動につなげさせる。

※本時は\_\_\_\_\_の部分

イ 思考を広げ深める手立ての工夫 **研究の視点2**

- ・ 曲の音楽的な特徴から感じ取ったことを自分の言葉で発表させ、話し合わせる。
- ・ グループで話し合ったり、音や音楽で試したりしながら自分たちの思いや考えを深めさせ、主体的・協働的に音楽表現を工夫させる。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫 **研究の視点3**

- ・ 学習のプロセスを見通し、振り返る場面を設定し、学習評価表を活用させることで学んだことの意味や価値を自覚させ、今後の学習への意欲につなげさせる。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

論理的思考力レベル2	
<p><b>【生徒の姿】</b> 楽譜の中の音楽の用語や記号の意味を理解し、作曲者の意図を読み取る。<u>それを根拠に自分の考えをもち、その根拠を用いた理由を意識して、他者に解釈や説明をするとともに、共に音楽表現を工夫する。</u></p> <p style="text-align: right;">※本時は_____の部分</p>	<p><b>【手立て】</b> ・ 音楽の基礎基本事項をまとめた「手引き」を活用し、楽譜の中の音楽の用語や記号などを確実に確認し、共通理解させる。 ・ 楽譜の中の音楽の用語や記号の意味を生かして、どのように歌いたいかについての思いや意図を楽譜と付箋に書き込んで、話し合いや練習に取り組みせる。</p>

## (5) 展開

過程	時間経過	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
導入	4分 一斉 3分 一斉	1 「夏の日」の贈りもの」のAとBの部分 を歌う。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">この曲にふさわしい表現をするためには、どのような工夫をすればよ いだろうか。</div>	○ 前時の学習を振り返りながら歌わせ、本時の学習への意欲を高めさせる。 ○ 本時の課題と学習の流れについて提示し、見通しをもたせる。 ○ 既習したことを生かして、音楽表現への意欲をもたせる。 <b>常</b> 課題発見力 レベル2
展開	28分 グループ	3 グループに分かれて、「夏の日」の贈りもの」のCの部分の表現の工夫について話し合い、まとめたことを基に練習をする。	○ 前時に学習したA, Bの部分の参考として、Cの部分の歌詞や曲想、旋律線と強弱との関わりを考えさせる。 ※ 前時に書込をした楽譜や付箋を活用し、歌詞や曲想、旋律線と強弱との関わりに気付かせ、それを生かした音楽表現を考えさせる。 <b>研究の視点1</b> ◎ 歌詞の内容や曲想を味わったり、旋律線と強弱との関わりを理解したりしながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ※ 話し合っまとめたことを基に、グループごとに歌いながら音楽表現を工夫させる。 <b>研究の視点2</b>
	12分 グループ	4 グループごとに工夫したことを生かし、発表をする。 5 各グループの発表を聴き、表現の工夫ができているか確認をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">[納得] P1：楽譜の中の用語や記号に注意して演奏を工夫することで、同じ曲でも違った感じに聴こえる。 P2：自分たちの思いや意図をもって表現を工夫することで、人によってそれぞれ違った表現をすることができる。</div>	<b>常</b> 協働する力 レベル2 ○ 各グループの工夫した点に注目させながら聴かせる。
終末	2分 一斉	6 本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">曲にふさわしい表現をするためには、楽譜の中の用語や記号など、作曲者の思いや意図を意識しながら歌うことが大切である。</div>	○ 本時のまとめをさせる。 ※ 学習評価表で、授業を振り返るとともに、学んだことの意味を自覚させることで、次の学習へのつながりを意識することができる。 <b>研究の視点3</b>
	1分 一斉	7 次時の予告を聞く。	<b>常</b> メタ認知 レベル2 ○ 生徒の活動や変容を認め、次時の学習への意欲につなげる。

